

## 【鶴見区】平成 28 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 28 年 6 月 20 日(月) 午後 2 時 25 分 ～ 午後 3 時 55 分
場 所	鶴見区役所 5 階 特別会議室
出席者	<p>【座 長】井上さくら議員</p> <p>【議 員：5 名】尾崎太議員、山田一海議員、古谷靖彦議員、 渡邊忠則議員、有村俊彦議員</p> <p>【鶴見区：25 名】征矢雅和区長、平野仁副区長、 清水文子福祉保健センター長、花内洋福祉保健センター担当部長、 隈元幸治鶴見土木事務所長、齋藤俊彦鶴見消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成 28 年度 鶴見区の予算について</li> <li>2 平成 28 年度 鶴見区個性ある区づくり推進費予算について</li> <li>3 平成 28 年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業費等執行計画について</li> </ol>
発 言 の 要 旨	<p>古谷議員：二ツ池公園は、公園としてオープンして、人もたくさん来ていてよかったと思うが、池の水がひどい濁り方をしている。あれは早急に対応が必要ではないか。</p> <p>隈元土木事務所長：今年度、周辺の湧水を池に引き込む工事を行うと聞いている。それで少しは改善できるのではないかと聞いている。</p> <p>古谷議員：その工事のことは聞いているが、それでは間に合わないくらい濁りがひどい。改めて、早急に対応が必要ではないか。</p> <p>隈元土木事務所長：局の方にも伝えておく。</p> <p>古谷議員：最近、カラスの苦情が多いが、区ではそういった相談に対応しているのか。ごみ置き場のところとか、平安公園もカラスが多いと聞いている。</p> <p>隈元土木事務所長：土木事務所の管理になる部分もあるので、環境創造局とも連携して対応していく。</p> <p>古谷議員：駒岡地区センターで実施しているこども食堂を見学してきたが、非常にたくさんの方が来られている。子どもだけではなく、周りに</p>

も働きかけて、一人暮らしのお年寄りなども来られていて、いい雰囲気だと思った。地区センターの資機材を使って、(自主事業として)運営ができていて、というのは非常にいいやり方である。ただ広報に苦勞されているという雰囲気があったので、駒岡地区センターにこども食堂があるという広報を、区の方でも支援したらどうか。非常にいいことだと思うので、区としてももっとアピールできないか。

嶋崎区政推進課長：広報よこはま鶴見区版やメールマガジン、ツイッターなども活用して広報を行っている。いただいたご意見も参考にして今後検討する。

中澤こども家庭支援課長：こども食堂については、こども家庭支援課としても注目しており、重要な活動だと思っている。ただ、どこに焦点をあてているのか等、もう少し勉強させていただきたい点もある。

高橋地域振興課長：駒岡地区センターの指定管理者を選定する際に、事業者の方から地区センターの目玉として提案されて、そこが評価された。また、近隣にお住まいの方で、食材を無償で提供したいという申し出があり、それが運営にもかなり貢献しているようだ。

古谷議員：市内の地区センターやケアプラザからもたくさん視察にも来ていて、誇るべきものになっていると思うので、ぜひ色々な形でアピールしていただきたい。

有村議員：鶴見区障害児・者暮らしいきいき事業で、「お祭りマップ」は新規のものだが、配布の対象者は誰になるのか。

小黒福祉保健課長：スポーツセンターや地区センター、コミュニティハウスなどの区民利用施設への設置を考えている。

有村議員：ぜひ進めていただきたい。これは障害者差別解消法の制定も踏まえた、よりユニバーサルな社会を目指しての活動だと思う。しかし、一方では、保守的なご意見もあるので、慎重に、本来の目的に合うように工夫しながら、分け隔てないような地域を目指して欲しい。

有村議員：保育士確保推進モデル事業(つるみの未来を育てる保育所事業)に関して、鶴見大学は今まで区内の保育園で、保育士の体験をするということとはしていなかったのか。

岩田学校連携・こども担当課長：今までもインターンシップのような形の体験は行っていたが、今回はアルバイトとして実際に働いてもらお

う、ということになった。

有村議員：費用の半分を持つ、ということだが、園側が残りを負担するわけで、それでもやってみたいという園側のニーズは多い状況なのか。

岩田学校連携・こども担当課長：事前に園長会にも諮って、そうした制度に興味があり、実際にやってみたいというお話も伺った。

有村議員：その先の、区内認可保育園への就職に繋げる、ということがすごく難しいのではないかと思う。体験して、保育士になってもらうというきっかけにはなるかもしれないが、そこから区内の保育園に就職してもらう、というところまで結びつけるのは、かなりの工夫が必要ではないか。その辺りはどう考えているのか。

岩田学校連携・こども担当課長：区内の就職に結びつけるのは難しいが、実際に働いてみて、その園のことを肌で感じていただくことは重要だと思っている。

有村議員：ぜひとも区内の就職に繋がって欲しいという思いがある。園の方でも積極的な働きかけが必要だと思うので、園との意見交換や働きかけをして欲しい。

高橋地域振興課長：鶴見大学の学生は区内の施設で実習を受けている実績はあるが、学生が自分が住んでいる（区外の）身近な園で実習先を探してきて、そのまま就職に繋がるケースも多い、というお話も伺った。学業の空いている間にアルバイトをしてもらい、鶴見区内の施設を知っていただき、そこから就職に繋げていくようなことができれば、非常に効果的ではないか。そういう思いも込めて、今回モデル的に事業を実施することにした。まずは1年間やってみて、検証をしていきたい。

有村議員：はまっこふれあいスクールから放課後キッズクラブへ移行しているが、区はどういった係わりをしているのか。

岩田学校連携・こども担当課長：区ではまず学校に伺って、校長先生や（はまっこふれあいスクールの）チーフの方などと、移行の可能性やニーズの調整をしている。

高橋地域振興課長：放課後キッズクラブの運営法人の選定は区の責任。

有村議員：移行を予定しているところは、地域でNPO法人を立ち上げて運営するか、公募するかで進めているようだが、鶴見区では現時点ではすべてが公募になっている。その理由はあるのか。全市的にみると4：6くらいの割合で、NPO法人立上げと公募になっている。

岩田学校連携・こども担当課長：ご指摘のとおり、鶴見区ではすべて公募になっているが、区から公募にしてください、としているわけではない。両方にメリット、デメリットはある。地域型では従来との継続性はあるが、将来的な世代交代が難しい、また、法人としての事務負担が増えるということもある。

有村議員：鶴見は、はまっこふれあいスクールが多い。はまっこからキッズクラブへの移行だと条件が違うから、主体的にやるのは難しい、ということもあるのかと思う。実際にキッズクラブに移行を検討している方々の話を聞いてみると、NPO法人を立ち上げるなら自分達で立ち上げてください、と言われ、それはなかなか難しいので、公募をお願いします、ということにせざるを得ない、という声も聞く。区としてその辺にも関与して調整するとか、NPO法人を地域で立ち上げる際に支援するとか、何か関与できたらいいと思うが、その辺はどうか。

岩田学校連携・こども担当課長：そういった相談をいただくこともあるが、区としてもそれほどノウハウを持っている訳ではないので、局とも連携して考えていく。

有村議員：地域の声としては、公募をお願いするより、地域主体で運営していった方が、子ども達にとってよりよい環境になるのではないかと、いう声もある。そのような声に対して、区として何ができるのか検討もして欲しい。学童クラブもそういった運営に手を挙げていけば負担も減るし、解決策のひとつだと思う。これまでの背景や課題もあるが、全市的には学童が手を挙げているところもあるらしいので、そういった工夫も区としてやっていただきたい。

岩田学校連携・こども担当課長：今回鶴見区でも5校ほど選定があるが、実際に見学に来られた学童クラブもある。また今後も意見交換をさせていただきたい。なお公募になった時も、継続性は必要なので、スタッフは基本的にそのまま働いていただいたりして、公募でも運営に携わる人が全く変わってしまうということではない。

有村議員：地域との協議会を持って意見交換するという仕組みも考えているので、公募だから利益優先型に走るとは思っていないが、地域の意向もあると思うので、そのサポートもしっかりできるように、改めて検討していただきたい。

尾崎議員：防災活動推進事業で、つるみっこ防災塾は今年度はどの学校で

やるのか。

松本総務課長：今年度は5校で実施する。生麦小、岸谷小、獅子ヶ谷小、入船小、それと新たに今年度から矢向小が加わっている。

尾崎議員：鶴見駅西口の喫煙所について、現状で決まっている方向性はあるか。

石井資源化推進担当課長：現在は、JT（日本たばこ産業株式会社）と資源循環局で詰めていて、今年中に整備する予定で進めていると聞いている。整備の内容としては、喫煙場所の変更できないが若干広げる予定で調整に入っている、と聞いている。

尾崎議員：近くにタクシー乗り場もあって、鶴見の玄関口でもあるので、是非しっかりとした整備をお願いしたい。今、鶴見駅の東口と西口は喫煙所を整備してもらっているが、喫煙所以外で吸っている人も結構いる。喫煙禁止区域ではないエリアで、幼稚園・保育園・小学校など子ども達がいる周辺で大人がタバコを吸いながら通勤などしており、区では何か対応はしているのか。

石井資源化推進担当課長：喫煙所については区にも相談が持ちこまれている。また喫煙禁止地区でのパトロールについては資源循環局が実施しているが、禁止区域外にある幼稚園、保育園、小学校などの子どもたちがいる周辺では行っていない。区としてもパトロールのエリアについて資源循環局と調整していくことはできるかもしれない。

尾崎議員：（喫煙所については）区に担当の窓口があって相談を受けるというよりは、資源循環局の担当部署に相談ということでもいいか。

石井資源化推進担当課長：現状ではそういう形になる。なお、鶴見駅周辺以外の喫煙禁止区域に指定されていない地域でも区として喫煙マナー啓発キャンペーンを行っている。尻手駅周辺でのキャンペーンも6月30日に実施予定だが、学校周辺などにおいては現状ではやっていない。

渡邊議員：横浜では、喫煙禁止地域を作って、その中に喫煙所を設けている。鶴見駅東口整備前は（喫煙場所が）すぐにわかったが、整備後は位置が掲示されていないのかと思った。駅を降りて吸おうと思っても、どこで吸っていいのかわからない。喫煙所の場所がわからないと、なかなかうまく活用されない。

嶋崎区政推進課長：鶴見駅周辺の案内図の改修を現在行っている最中。東

口は終わってしまったので盛り込めていないが、西口はこれから行うので、喫煙所の表記もしていきたい。東口の案内板も小さな改修があればそれに合わせて盛り込んでいきたい。

渡邊議員：案内板で、多言語はどのくらい対応するのか。鶴見区は外国人も多い中で、どういった言語で表現していくのか難しいが、言語数とか、ある程度の決まりはあるのか。

嶋崎区政推進課長：案内板によって、公共サインのガイドラインが決まっている。その中で、言語も指定されている。

渡邊議員：鶴見は特に南米系の方も多。全部（の言語を）入れればいい、ということにはならないが、多文化共生というからには考えておいた方がいい。観光資源やインフラについてもどう伝えていくのか、MICEを推進していく以上、考えていって欲しい。

渡邊議員：障害者の皆様の、普段の地域とのつながりはどうなのか。町会の方たちの考えもある。「お祭りマップ」は、お祭りに障害者の方々を呼ぶということで、すごいと思ったら、そうではなく、施設のイベント情報などを提供するという事だった。

青木高齢・障害支援課長：地域の皆さんが障害者の方々を町内会にお呼びしたり、障害者地域作業所の運営委員会に町内会長さんにも入っていただいて、交流をしながらやっていっているところもある。災害時の要援護の関係もあり、まさに一人ひとり見守りをしながら進めている。

渡邊議員：高齢者はつらつ生活応援事業で、高齢者地域資源マップを新規で発行するのは、高齢者の孤立を防ぐにはいいと思う。銭湯で高齢者の入浴サービスデーをやっているところがあるが、そういうものもここに入れられるようであれば、高齢者の楽しみにもなってくるし、いいのではないか。

渡邊議員：都市計画マスタープラン・鶴見区プラン改定事業では、スケジュールが出てきて、今後関係団体との意見交換が行われ、プランの内容がこれから決まってくると思うが、意見として、防災と京浜臨海部の緑化という部分について意見を聞ける人をぜひ入れていただきたい。

山田議員：都市計画マスタープラン・鶴見区プラン改定事業について、中距離電車の鶴見駅停車についても、ぜひマスタープランの中に盛り込ん

で進めていただきたい。

山田議員：ブラジル交流事業（多文化のまち・つるみ推進事業）で、「Let's sports! Brazil!」の案内をいただいたが、昨日（6/19開催）はどうだったのか。

高橋地域振興課長：昨日、スポーツセンターでイベントを行った。元東京オリンピックの体操の金メダリストが体操クラブの方を連れていらして、区内の小学生約40名がマット運動をしたり、群馬県から少年サッカーチームが来て、鶴見区のスポーツクラブの子ども達と交流戦を行った。またブラジルの格闘技であるカポエイラのデモンストレーションや教室も行った。オリンピックやブラジルを肌で感じるようなイベントということで、今日の神奈川新聞にも掲載していただいた。

山田議員：鶴見区は多文化共生をうたっているのに、そういった事業も少ないと思う。

山田議員：鶴見区役所では、色々な相談などに対応できる言語は何か。

嶋崎区政推進課長：スペイン語、中国語、英語に対応できる相談員がいる。また最近ではタブレット端末を導入して、コールセンターと繋いで通訳業務をやってもらえる事業を実施していて、そちらは基本的には英語と中国語に対応している。

山田議員：鶴見区制90周年もあるし、千客万来もうたっているのに、ぜひたくさんの人に来ていただけるようお願いしたい。

山田議員：地域包括ケアシステムの進捗状況はどうか。

青木高齢・障害支援課長：区役所に担当の係長が配置され、各ケアプラザと区社会福祉協議会に生活支援コーディネーターも配置された。このメンバーで連絡会を設けて議論を進めている。地域包括ケアシステムは今始まったものではなく、2025年に向けて、今ある認知症施策などやネットワークなどと並行して進めている。

山田議員：色々な職種の人に関連している。その前提で、分かりやすいものにしていただきたい。

清水センター長：このケアシステムについては、年老いても地域で安心して、ということの中に、医療という観点も入っている。現在、包括支援センターにも頑張ってもらっているが、福祉保健センターとしても、鶴見区医師

会や訪問看護の方とも連携して事業を展開するという事で、情報共有もさせていただいている。

山田議員：ぜひしっかりやっていただきたい。

井上議員：「お祭りマップ」や「高齢者地域資源マップ」など区が発行する主な印刷物は、発行されたら議員にも参考に送付していただきたい。

⇒「高齢者地域資源マップ」は席上で配付。

青木高齢・障害支援課長：「お祭りマップ」は来年3月に発行予定なので、発行したら送付する。

井上議員：鶴見駅西口の喫煙場所については、場所を広げるという話があったが、設置の時にもあの場所はどうなのかということを上申した。駅から出てすぐであるということと、上にデッキがあることによって煙が滞留してしまう。結局他に場所がないということであの場所になったが、区民の皆様から大変困っているというお話をいただく。タクシー乗り場に近く、行列ができると待っている間中ずっと副流煙にさらされる。夕方は特に煙がひどい状態。あの場所に設置するなら、横浜駅にあるように閉鎖型で、空気清浄器で吸い込むような形にしないとだめなのではないか。どのような検討をされているのか。

石井資源化推進担当課長：場所を囲いたい、という話は聞いている。入口を1か所にして、なるべく煙が表に出ていかないように、中だけで納まるような形で囲いをする、という方向で考えているようだが、まだ具体的な案は出てきてはいない。場所についても移動の検討はされたようだが、あの場所で多少広げて、ということになっている。予算については、すべてJT負担でやっていただき、あくまでも設置場所などについて行政が関与していく、という形になる。資源循環局の地域連携推進担当が窓口となってJTと交渉することになるが、煙が表に出ないような対応を、区からも要望をあげているし、局としても取り組んでいる。

井上議員：完全に閉鎖して吸い込む形ではないのか。

石井資源化推進担当課長：上までは閉鎖しない形で考えているようである。まだ完全に決まったわけではなく、設置するときの条件の問題もあるかもしれないが、周りを囲って入口を1か所にする、ということで今のところは聞いている。

井上議員：相手があることで、調整もあると思うが、区としては閉鎖型に



して欲しい、ということを書いてもらいたい。今の説明だと、屋根がないということは上から煙が抜ける。地域の方からは、バス停で並んでいるときは禁煙なのに、市の政策によって、タクシー待ちで並んでいる側は受動喫煙を強制されている、と言われている。あの場所であれば、受動喫煙を強いている形になってしまうのはどうか。

平野副区長：今はまだ間に合うので、区としても意見を伝えていく。

井上議員：こども食堂を見させていただいた。地区センターの自主事業として実施されていて、まさに指定管理のポイントだったと思うし、とてもいい取組だと思う。今は事業者が自主的にやっている形なのでその良さを生かしながら、横に広げるようにしてほしい。

子どもの貧困対策というのが横浜市の重要な施策の柱にもなっているが、実際にどのような状況で、どこにどのようなニーズがあるかというのは、市ではなく区でないとわからないと思う。現場でニーズを把握することの役割としても、(こども食堂のようなものは)とても意味があると思う。区配事業として寄り添い型生活支援事業があるが、つるみ元気塾ももっとサテライト的なものがあつたらいいと思う。例えばこども食堂の場所が、そういったサポートの機能を持っていてもいいと思う。鶴見区として状況把握しながら、子どもの貧困対策という問題意識を持って、関わっていけないか。

小黒福祉保健課長：こども青少年局と区が連携して、区が何をやるべきなのか勉強していかないといけない。こども青少年局から全区に対して実態調査が来ている。(鶴見区には)現時点では、こども食堂的なものが3か所あると回答している。もう一つは社会福祉協議会が支援者の方々と一緒になって、子どもの貧困対策として何ができるのかということ意見を交換されているので、それも大変ありがたいと思っている。もっと社会福祉協議会とも連携して、区としても何ができるのか検討していきたい。

清水センター長：未来塾は生活保護世帯ということで、区で持っているデータや、日頃ケースワークとしても携わっているが、今年度はこども青少年局と一緒に、地域の把握をやろうということで、年度当初から話をしている。そういった意識をもって携わっていきたいと思っている。

井上議員：まずは自主企画事業のようなものでもいいと思う。試行錯誤的

なものと、いきなり局に上げて局事業としてやってもらうというのも難しいかもしれないが、少しプラスアルファすることで、まずは自主企画事業的なところから、他の地区センターでやるというのもいいと思うので、ぜひ問題意識を持って取り組んでいただきたい。

以上